

3. 海洋政策科学部の特色

神戸大学 海洋政策科学部の取組み



文系思考と理系思考の学生による海事海洋の文理融合教育
 <多様性を理解し合える環境の中で、海事海洋社会の
 課題の解決に貢献できる人材育成>

基礎

- 【教育】
 ・海洋リテラシーを基盤とした教育カリキュラム

専門性

- 【教育】
 ・主専門と副専門の選択により幅広い専門性の修得

応用展開

- 【研究】
 ・海洋政策の観点からのサイエンス、テクノロジー、ガバナンスの研究推進

ゴール

- ・海洋グローバルリーダー、エキスパート人材の養成
 ・海洋教育研究面からの海事海洋社会への貢献



内航・外航船舶を活用した海洋Big Dataの構築と活用に関する人材育成と技術開発

- ・運航安全性の向上、経済的最適運航計画、海洋環境保全、海洋由来災害の減災や支援対策
- ・モニタリング技術及びデータ解析手法の開発、システム開発、活用技術の創出



MASSと次世代推進プラントの実現とDXに対応できる海技士育成の展開

- ・遠隔操船・遠隔管理のためのDX海技士育成の世界拠点の形成
- ・練習船を用いた社会実装等の推進



海洋再生可能エネルギーとグリーン水素の活用へ向けた人材育成と技術開発

- ・洋上風力発電と水素エネルギー海上輸送技術
- ・洋上ウインドファーム実現と極低温技術の知識を備えた人材養成

海洋政策科学部 (Faculty of Oceanology)
海洋政策科学科 (Department of Oceanology)

主な教育研究分野

一般3領域
海洋基礎科学領域 / 海洋応用科学領域 / 海洋ガバナンス領域

海技ライセンスコース
航海学領域 / 機関学領域

学士(海洋政策科学)
(Bachelor of Oceanology)

学士(商船学)
(Bachelor of Maritime Sciences)

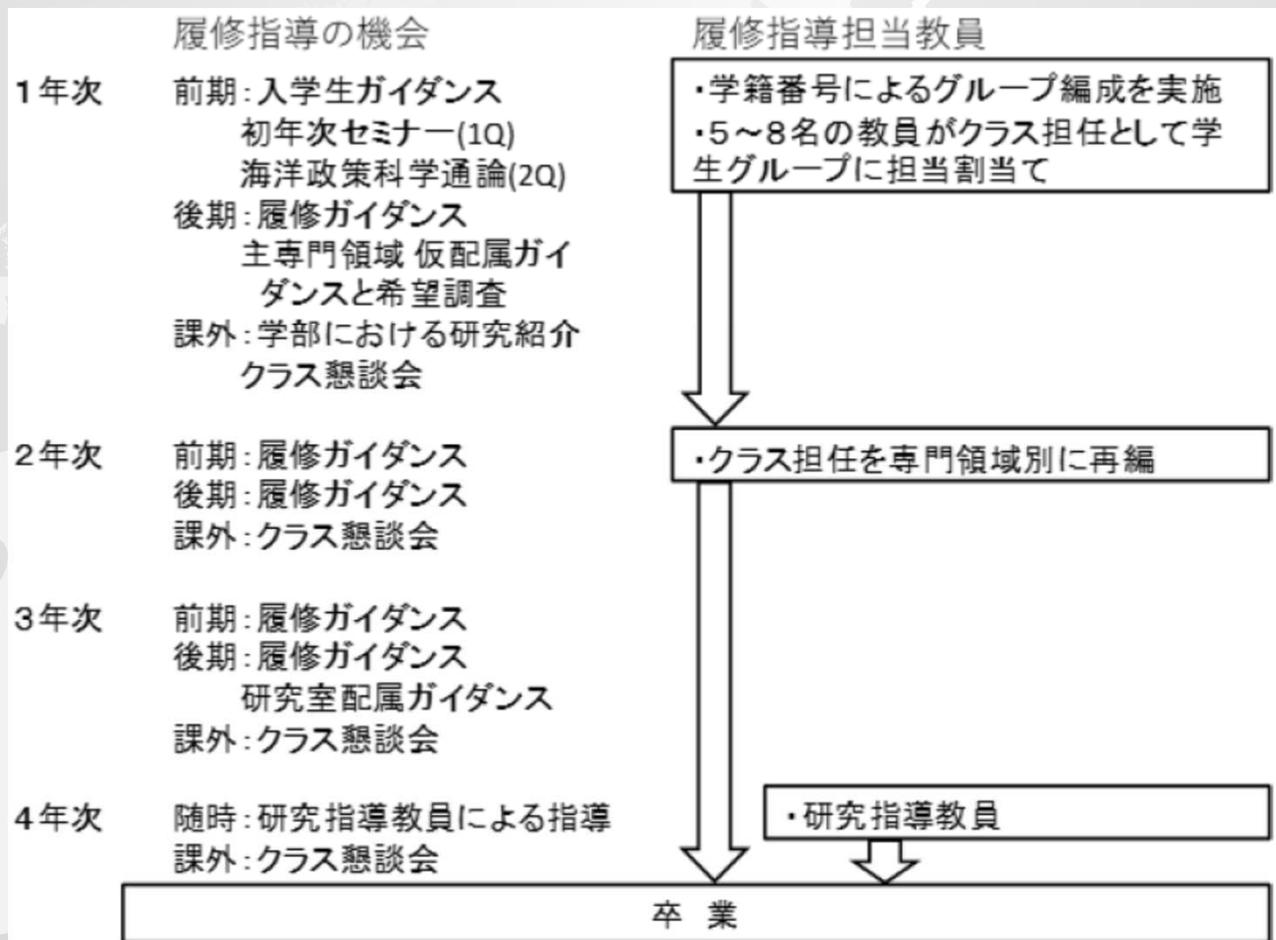
コース等	領域名	配属学生数 (人)
一般3領域	海洋基礎科学	30~50
	海洋応用科学	50~70
	海洋ガバナンス	30~40
海技ライセンスコース	航海学	~90
	機関学	

領域 / コース

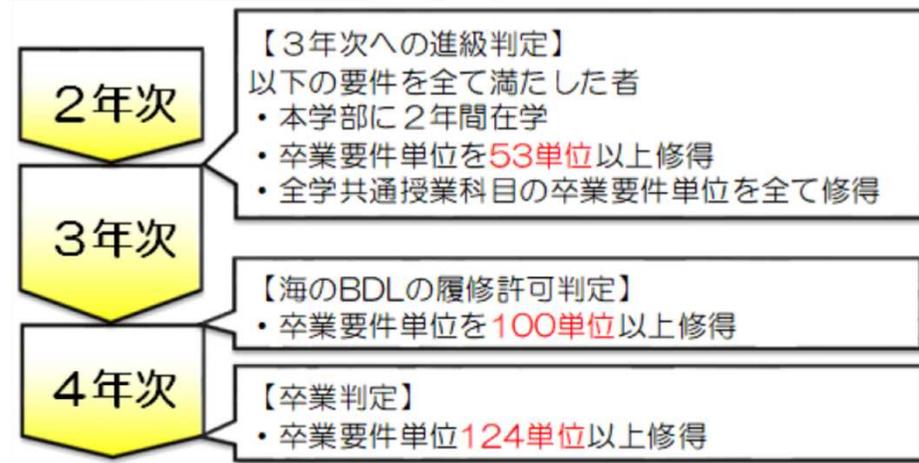
概要

一般3領域	海洋基礎科学領域	理学的観点から、海洋に係る国際的課題や海洋政策を理解するとともに、海洋の成り立ちや、海洋を含む地球システムの物質循環、海洋及び地球環境問題や自然災害、海洋探査技術や海底資源、海洋再生可能エネルギーの開発に関する専門知識を修得することで、持続可能な海洋との共生に資する基盤技術や応用科学及び技術の発展に貢献する能力を身に付ける。
	海洋応用科学領域	工学的観点から、海洋に係る国際的課題や海洋政策を理解するとともに、船舶や海洋構造物、海底掘削技術など、将来の海洋技術開発に資するマリエンジニアリングの専門知識を修得することで、海洋の有効活用を推進し、海洋の利用と開発に資する基盤技術や応用技術の創造と発展に貢献する能力を身に付ける。
	海洋ガバナンス領域	経済学など社会科学的観点から、海事・海洋分野における科学技術を理解するとともに、様々なモノ（人、物資、金融など）の流れ、国際ルール、地政、経済、経営、政策、戦略など海洋社会に資する社会科学分野の専門知識を修得することで、人類と海・船の歴史を踏まえ、将来の海洋の平和利用に貢献し、政策立案に寄与する能力を身に付けます。
海技ライセンスコース	航海学領域	商船学の観点から、船の運航技術と管理に留まらず、海洋政策科学分野の幅広い知識を学び、海技士（航海・機関）としての専門知識と技術を修得することで、海事・海洋社会に関する高い見識を備え、政策立案に寄与できる海のグローバルリーダー及び海のエキスパート（神大海技士）となる能力を身に付けます。
	機関学領域	

海洋政策科学部における履修指導の概要



海洋政策科学部における
進級判定、履修許可判定、
卒業判定指導の概要



キャップ制：52単位



開講科目一覧 (2021年度入学生用)

主専門領域：機関学領域 副専門領域：海洋ガバナンス領域 ※太字は必修科目

1年				2年			
第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
外国語科目				受講推奨科目(他領域開講)			
外国語第I (Academic English Communication A1,A2,B1,B2)				海洋専門基礎科目			
外国語第II (Academic English Literacy A1,A2,B1,B2)				情報科学-1	情報科学-2	制御理論-2	
外国語第II (独,仏,中,英語初級 A1/B1,A2/B2,A3/B3,A4/B4)				海洋学-1	海洋学-2	浮体静力学-1	浮体静力学-2
海洋専門基礎科目(領域共通)				高度教養科目			
コミュニケーション英語A	コミュニケーション英語B	コミュニケーション英語C	コミュニケーション英語D	ライティング英語A	ライティング英語B	ライティング英語C	ライティング英語D
情報科目				高度教養科目			
情報基礎				基礎教養(人文,社会科学,生命科学,自然科学)	海洋法政策概論	環境法概論	現代海洋政策概論-1
総合教養(多文化理解,自然界の成り立ち,グローバルイシュー,ESD,特別科目,神戸学,ア-列(1))				Introduction to Maritime Sciences			
海洋リテラシー科目				海洋専門基礎科目(機関学領域)			
初年次セミナー	海洋政策科学講義	海のサイエンス		海事業業技術概論-1	海事業業技術概論-2	流体力学-1	
海のテクノロジー	海のガバナンス	流体力学-2		材料力学-1			
海のアクティブラーニング	海事実務概論-1	海事実務概論-2		材料力学-2			
共通専門基礎科目				物理学実験/化学実験/材料加工・機械製図			
線形代数入門1	線形代数入門2	工業熱力学-1		工業熱力学-2	工業熱力学-3		
線形代数1	線形代数2	線形代数3	線形代数4	電気回路-1			
微分積分入門1	微分積分入門2	数理統計1	数理統計2	電気回路-2			
微分積分1	微分積分2	微分積分3	微分積分4	電子回路-1			
物理学入門	連続体力学基礎			制御理論-1			
力学基礎1	力学基礎2	電磁気学基礎1		電磁気学基礎2			
基礎物理化学1				基礎物理化学2			
基礎物理化学2				基礎有機化学1			
基礎有機化学2				海洋専門基礎科目(領域共通)			
				応用数学1-1	応用数学1-2	応用数学3-1	応用数学3-2
				応用数学2-1	応用数学2-2	応用数学4-1	応用数学4-2
				熱力学-1	熱力学-2	力学-1	力学-2
						電磁気学-1	電磁気学-2
				環境分析化学-1	環境分析化学-2	無機材料科学-1	無機材料科学-2
				海洋専門基礎科目(海洋ガバナンス領域)			
				経済学基礎論1-1	経済学基礎論1-2	経営学基礎論1-1	経営学基礎論1-2
				経済学基礎論2-1	経済学基礎論2-2	経営学基礎論2-2	
						会計学基礎論-1	会計学基礎論-2
						国際関係論-1	国際関係論-2
				海上保険概論-1	海上保険概論-2	港湾政策概論-1	港湾政策概論-2
				交通政策概論-1	交通政策概論-2	海運政策概論-1	海運政策概論-2

3年				4年			
第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
受講推奨科目(他領域開講)				受講推奨科目(他領域開講)			
主専門科目				主専門科目			
計算機システム論-1	計算機システム論-2	データベース論-1					
アルゴリズム-1	アルゴリズム-2	情報ネットワーク論-1					
				ロボット工学-1			
				高体シミュレーション工学-1			
主専門科目(機関学領域)				パワーエレクトロニクス-1			
実用海事機関英語-1	実用海事機関英語-2	構造強度					
				数値解析論-1			
現代海事産業概論-1	現代海事産業概論-2	確率モデル-1					
				人工知能-1			
				インタフェース設計論-1			
主専門科目(機関学領域)							
機関室資源管理-1	機関室資源管理-2						
抵抗推進工学-1	抵抗推進工学-2						
浮体運動学-1	浮体運動学-2						
材料強度学-1	材料強度学-2						
材料加工学-1	材料加工学-2	機械設計工学-1					
熱機関工学-1	熱機関工学-2						
伝熱工学-1	伝熱工学-2	燃焼工学-1					
電気機器-1	電気機器-2						
エネルギープラント保全論-1	エネルギープラント保全論-2	海事法規-1,-2					
洋上プラント安全論-1	洋上プラント安全論-2						
機関学実験							
エネルギープラント管理演習-1		船舶実習-1		エネルギープラント管理演習-2		船舶実習-2	
				船舶衛生-1	船舶衛生-2		
				海洋生存技術演習			
運動科学-1,-2							
				海洋総合科目			
				※特別研究B			
				※海技士総合ゼミ			
				海のBDL			
				※特別研究Bまたは海技士総合ゼミのいずれかが選択必修			
主専門科目(海洋ガバナンス領域/海洋法政策)							
				国際社会論			



HP掲載

領域毎の
カリキュラム
フロー

○履修モデル **主領域：海技ライセンスコース（航海）** **副領域：海洋ガバナンス**

N

【卒業後の想定進路】

- 商船学系研究科及び社会科学系大学院への進学
- 外航・内航船舶や海洋調査船等の運航・管理を担う海上職員や技術者、研究者、管理経営責任者
- 交通運輸産業（物流、商社など）や海事クラスター企業（海運、造船、船用工業など）の職員や海技者、研究者、管理経営責任者
- 官庁・公的機関等（国家公務員、地方公務員）、世界の海技者教育を担う教育研究機関の研究者や技術者、教育者、上級管理職員
- 海事・海洋行政等に関わる国内機関や国際機関の職員

卒業要件単位数：124単位（以下、丸数字は単位数）

4年次

海洋総合科目<8>
海のBDL ② 海技士総合ゼミ ⑥

主専門科目<53>
>主領域 (53) 注)下線は4年次履修科目

- 航海航法-4, -5, -6 ③
- 航海計器-4, -5, -6 ③
- 船舶工学-1, -2 ② 海洋気象学-1, -2 ②
- 航海学演習-4, -5 ②
- 運用学演習-1, -2, -3, -4 ④
- 運用学演習-1, -2, -3, -4 ④
- 操船学-1, -2 ② 載貨論 ① 管理実務-1, -2 ②
- 海事英語（船舶実務）-1, -2, -3, -4, -5, -6 ⑥
- 海事英語（船舶通信）①
- 海事法規-1, -2 ② 海上交通法-1, -2, -3 ③
- 船舶実習-1, -2 ⑤

高度教養科目<4>
【領域共通】

現代海事産業概論-1 ①

3年次

海洋専門基礎科目<26>

- >主領域 (20: 領域共通含む)
- 海上保険概説-1, -2 ②
- 航海航法-1, -2, -3 ③
- 航海計器-1, -2, -3 ③
- 航海学演習-1, -2, -3 ③
- 船舶運航概論 ①
- 海洋学-1, -2 ②
- 気象学-1, -2 ②

- >副領域 (6)
- 経済学基礎論1-1 ①
- 経営学基礎論1-1 ①
- 海運政策概論-1, -2 ②
- 港湾政策概論-1, -2 ②

【領域共通】
ライティング英語C, D ①

ライティング英語A, B ①
コミュニケーション英語A, B, C, D ②

共通専門基礎科目<8>
微分積分1, 2 ②
線形代数1, 2 ②
数理統計1, 2 ②
基礎物理学1, 2 ②

全学共通授業科目<17>
基礎教養科目 ④
総合教養科目 ④
外国語科目第I ④
外国語科目第II ④
情報科目 ①

2年次

海洋法政策概論 ①
環境法概論 ①
Introduction to maritime sciences ①

1年次

海洋リテラシー科目<8>

- >海洋リテラシーⅠ
- 海のサイエンス ①
- 海のテクノロジー ①
- 海のカバナンス ①
- >海洋リテラシーⅡ
- 初年次セミナー ①
- 海洋政策科学通論 ①
- 海事実務概論-1, -2 ②
- 海のアクティブ・ラーニング ①

○履修モデル **主領域：海技ライセンスコース（機関）** **副領域：海洋ガバナンス**

E

【卒業後の想定進路】

- 商船学系研究科及び社会科学系大学院への進学
- 外航・内航船舶や海洋調査船等の運航・管理を担う海上職員や技術者、研究者、管理経営責任者
- 交通運輸産業（物流、商社など）や海事クラスター企業（海運、造船、船用工業など）の職員や海技者、研究者、管理経営責任者
- 官庁・公的機関等（国家公務員、地方公務員）、世界の海技者教育を担う教育研究機関の研究者や技術者、教育者、上級管理職員
- 海事・海洋行政等に関わる国内機関や国際機関の職員

卒業に必要な単位数：124単位（以下、丸数字は単位数）

4年次

海洋総合科目<9>
海のBDL ② 海技士総合ゼミ ⑥

海のインターンシップ ①

主専門科目<48>
>主領域 (48) 注)下線は4年次履修科目

- 機関室資源管理-1, -2 ② 実用海事機関英語-1, -2 ②
- 抵抗推進工学-1, -2 ② 浮体運動学-1, -2 ②
- 熱機関工学-1, -2 ② 伝熱工学-1, -2 ② 燃焼工学-1 ①
- 機械設計工学-1 ① 材料加工学-1, -2 ②
- 材料強度学-1, -2 ② 電気機器-1, -2 ②
- エネルギープラント管理演習-1, -2 ③
- エネルギープラント安全論-1, -2 ②
- 海事法規-1, -2 ② 船舶衛生-1, -2 ② 機関学実験 ①
- 船舶実習-1, -2 ⑤

高度教養科目<4>
【領域共通】

現代海事産業概論-1 ①

3年次

海洋専門基礎科目<30>

- >主領域 (24: 領域共通含む)
- 海事産業技術概論-1, -2 ②
- 流体力学-1, -2 ②
- 材料力学-1, -2 ②
- 工業熱力学-1, -2, -3 ③
- 電気回路-1, -2 ② 電子回路-1 ①
- 制御理論-1 ①
- 物理学実験 ② 化学実験 ②
- 材料加工・機械製図 ①

- >副領域 (6)
- 経済学基礎論1-1 ①
- 経営学基礎論1-1 ①
- 海運政策概論-1, -2 ②
- 港湾政策概論-1, -2 ②

【領域共通】
応用数学1-1, -2 ②
ライティング英語C, D ①

2年次

海洋法政策概論 ①
環境法概論 ①
Introduction to maritime sciences ①

共通専門基礎科目<8>
微分積分1, 2 ②
線形代数1, 2 ②
力学基礎1, 2 ②
電磁気学基礎1, 2 ②

1年次

全学共通授業科目<17>
基礎教養科目 ④
総合教養科目 ④
外国語科目第I ④
外国語科目第II ④
情報科目 ①

海洋リテラシー科目<8>

- >海洋リテラシーⅠ
- 海のサイエンス ①
- 海のテクノロジー ①
- 海のカバナンス ①
- >海洋リテラシーⅡ
- 初年次セミナー ①
- 海洋政策科学通論 ①
- 海事実務概論-1, -2 ②
- 海のアクティブ・ラーニング ①

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		海技士	免許講習	船舶衛生
			必修	選択			
海洋専門 基礎科目	航海航法-1	2年1Q	1		○		
	航海航法-2	2年2Q	1		○		
	航海航法-3	2年3Q	1		○		
	航海計器-1	2年1Q	1		○		
	航海計器-2	2年2Q	1		○		
	航海計器-3	2年3Q	1		○		
	航海学演習-1	2年1Q	1		○		
	航海学演習-2	2年2Q	1		○		
	航海学演習-3	2年3Q	1		○		
専門科目	航海航法-4	3年1Q	1		○		
	航海航法-5	3年2Q	1		○		
	航海航法-6	3年3Q	1		○		
	航海計器-4	3年1Q	1		○		
	航海計器-5	3年2Q	1		○		
	航海計器-6	3年3Q	1		○		
	船舶工学-1	3年1Q	1		○		
	船舶工学-2	3年2Q	1		○		
	海洋気象学-1	3年1Q	1		○		
	海洋気象学-2	3年2Q	1		○		
	航海学演習-4	3年3Q	1		○		
	運用法実習-1	3年1Q	1		○		
	運用法実習-2	3年2Q	1		○		
	運用法実習-3	4年1Q	1		○		
	運用法実習-4	4年2Q	1		○		
	運用法演習-1	3年1Q	1		○		
	運用法演習-2	3年2Q	1		○		
	運用法演習-3	4年1Q	1		○		
	運用法演習-4	4年2Q	1		○		
	操船学-1	3年1Q	1		○		
	操船学-2	3年2Q	1		○		
	載貨論	3年3Q	1		○		
	管理実務-1	3年1Q	1		○		
	管理実務-2	3年2Q	1		○		
	海事英語 (船舶実務) -1	3年1Q	1		○		
	海事英語 (船舶実務) -2	3年2Q	1		○		
	海事英語 (船舶実務) -3	3年3Q	1		○		
	海事英語 (船舶実務) -4	4年1Q	1		○		
	海事英語 (船舶実務) -5	4年2Q	1		○		
	海事英語 (船舶実務) -6	4年3Q	1		○		
	海事英語 (船舶通信)	3年3Q	1		○		
	海事法規-1	3年3Q	1		○		
海事法規-2	3年3Q	1		○			
海上交通法-1	3年1Q	1		○			
海上交通法-2	3年2Q	1		○			
海上交通法-3	3年3Q	1		○			
船舶衛生-1	4年1Q		1			○	
船舶衛生-2	4年2Q		1			○	
運動科学-1	3年1Q		1			○	
運動科学-2	3年1Q		1			○	
アクアティックアクティビティ演習	3年2Q		1			○	
船舶実習-1	4年4Q		8		○	○	

海洋政策科学部 における 免許科目総合一覽

N E



学生便覧

免許科目総合一覽
p. 194 - 195
PDF p. 202 - 203

海洋政策科学部
授業科目・科目区分・
開講時期・単位 一覽
p. 138 - 142
PDF p. 146 - 150

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		海技士	免許講習	船舶衛生
			必修	選択			
海洋専門 基礎科目 (領域共通)	コミュニケーション英語A, B	1年1.2Q	各0.5			○	
	コミュニケーション英語C, D	1年3.4Q	各0.5			○	
	ライティング英語A, B	1年3.4Q	各0.5			○	
	ライティング英語C, D	2年1.2Q	各0.5			○	
海洋専門 基礎科目 (機関学領域)	流体力学-1	2年1Q	1		○		
	流体力学-2	2年2Q	1		○		
	材料力学-1	2年1Q	1		○		
	材料力学-2	2年2Q	1		○		
	工業熱力学-1	2年1Q	1		○		
	工業熱力学-2	2年2Q	1		○		
	工業熱力学-3	2年3Q	1		○		
	電気回路-1	2年1Q	1		○		
	電気回路-2	2年2Q	1		○		
	電子回路-1	2年3Q	1		○		
制御理論-1	2年3Q	1		○			
材料加工・機械製図	2年1.2.3.4Q	1		○			
専門科目	機関室資源管理-1	3年1Q	1		○		○
	機関室資源管理-2	3年2Q	1		○		○
	海洋生存技術演習	4年1.2Q		1			○
	実用海事機関英語-1	3年1Q		1			○
	実用海事機関英語-2	3年2Q		1			○
	抵抗推進工学-1	3年1Q	1		○		
	抵抗推進工学-2	3年2Q	1		○		
	浮体運動学-1	3年1Q	1		○		
	浮体運動学-2	3年2Q	1		○		
	熱機関工学-1	3年1Q	1		○		
	熱機関工学-2	3年2Q	1		○		
	伝熱工学-1	3年1Q	1		○		
	伝熱工学-2	3年2Q	1		○		
	燃焼工学-1	3年3Q	1		○		○
	機械設計工学-1	3年3Q	1		○		
	材料加工学-1	3年1Q	1		○		
	材料加工学-2	3年2Q	1		○		
	材料強度学-1	3年1Q	1		○		
	材料強度学-2	3年2Q	1		○		
	電気機器-1	3年1Q	1		○		
電気機器-2	3年2Q	1		○			
エネルギープラント管理演習-1	3年1.2Q	1		○		○	
エネルギープラント管理演習-2	4年1.2Q	2		○		○	
エネルギープラント保全論-1	3年1Q	1		○			
エネルギープラント保全論-2	3年2Q	1		○			
洋上プラント安全論-1	3年1Q	1		○		○	
洋上プラント安全論-2	3年2Q	1		○		○	
海事法規-1	3年3Q	1		○			
海事法規-2	3年3Q	1		○			
船舶衛生-1	4年1Q		1			○	
船舶衛生-2	4年2Q		1			○	
運動科学-1	3年1Q		1			○	
運動科学-2	3年1Q		1			○	
機関学実験	3年1.2.3Q	1		○			
船舶実習-2	4年4Q		8		○	○	

船舶実習-1

3年4Q 8

○

海洋政策科学部における授業概要（典型例 1/3）

専門科目	海洋リテラシー科目	海洋リテラシー科目Ⅱ	海事实務概論-1	日本のみならず世界を対象にした船舶による輸送サービスを外航海運という。この講義では、近代における外航海運の変遷の振り返りながら、現在の国際的な海上物流の仕組みを学ぶ。船舶は各国の領海・公海の区別なく航海が可能であるが、遭遇する気象と海象に耐え、安全かつ効率的な輸送サービスを実現するために、ハードウェア、ソフトウェア、人的資源（ライブウェア）など様々な側面についてのルールが存在する。これらを調整・運用するための国際的な仕組みについても理解する。	専門科目	海洋専門基礎科目	航海学領域	船舶運航概論	深江キャンパスには港があり、附属練習船「深江丸」の係留岸壁の他、各種の舟艇の基地として機能している。この講義では、実際に深江丸及び小型舟艇など各種の船舶を動かす経験を通じて、風や潮の流れという環境から影響を受ける船の動きと、これらに対抗しながら目的地にむけて操縦する難しさを理解する。船の大きさや推進方法と出力により影響の程度と操縦の難しさは様々であるが、一方で、船を動かす「楽しさ」を体感できることも事実である。これらの経験が以降の就学の基盤となるよう整理する。
専門科目	海洋リテラシー科目	海洋リテラシー科目Ⅱ	海事实務概論-2	外航海運企業の経営スタイルを紹介する。外航海運企業は「船主」として果たす役割の他、船舶のメンテナンスや船員の手配など様々な機能を果たしている。1970年代のオイルショック、1985年のブラザ合意以降、分社化・分業化が進む一方で、海外に拠点を展開し多角的な経営体制をとっている。さらには、倉庫業、通関業などの多角化も図り、総合物流商社となっている。このようなグローバルな企業における組織運営とビジネス展開のポイントを学ぶ。	専門科目	海洋専門基礎科目	航海学領域	海洋学-1	日本は海に囲まれた海洋国家であり、海洋基本法の制定に見られるように、海洋関連分野は日本の重要政策に位置づけられている。「海洋学」の修得は、海洋政策の立案・実行に必要である。本講義では「海洋学」の中でも最も基礎となる物理過程を中心に教授し、様々な海洋現象の理解し、説明できるようになることを到達目標とする。また、海洋を含む自然環境への配慮など、倫理面についても理解を深める。海洋学1-1では、海洋の諸元（基準、距離、面積）、海水の物性（熱・水収支、水温、塩分、密度、水塊、氷結、海中光、海中音、熱塩循環）について解説する。
専門科目	海洋リテラシー科目	海洋リテラシー科目Ⅱ	海のアクティブ・ラーニング	練習船を活用し、限られた船内空間での集団・協働学習体験を通して、船舶運航・管理、海上輸送の概要を学び、陸上と異なる環境での活動を体験すると共に、海上ルールや実機に触れ、主体的な取り組み姿勢と専門分野への学びの意識を培います。各専門領域での学びの特徴的なテーマに基づいて、船内設備や環境を利用した講義及びグループワークを実施する他、船を動かすために必要となるブリッジでの監視や操船、エンジンルーム管理など、船舶運航の実際を知り、練習船に搭載されている様々な特徴的な機器の機能などの理解を深めます。	専門科目	海洋専門基礎科目	機関学領域	海事産業技術概論-1	船舶はエネルギー資源や物資の輸送に重要な役割を担っており、安全かつ効率的な運航を行なうために様々な装備やシステムが不可欠であり、海事産業技術に支えられている。これら海事産業において開発されている装備・船用機器の種類・役割・構造・機構・性能などの概要、および開発・設計・製造に関する具体的な業務内容や船用機器に関する最新技術の概要について学び、『専門科目の知識が様々な製品や技術開発に直結していること』を理解し、『専門知識を学習することの意義』ならびに『企業が担う社会的役割の意義』について認識することを到達の目標とする。
専門科目	主専門科目	航海学領域	海事英語（船舶実務）-6	国際海事機関（IMO）の定めた標準海事通信用語を基礎としながら、各担当教員の専門分野に関連した英語について、講義及び演習を行う。船舶職員として最低限必要とされる英語のみならず、国際海事社会において必要とされる専門的な英語に関する知識、技術を習得する内容となっている。海事英語-6はSafety Equipment & Navigational Charts に集中する。	専門科目	主専門科目	機関学領域	実用海事機関英語-2	海事、特に船舶機関プラントの運用と管理に関して、英語で読み、書き、話すことができるように、演習的な授業を通して、英語での表現と専門用語を習得する。実用海事機関英語-2では、実用海事機関英語-1を基礎として、機関日誌類に特有の英語表記や機関関連の報告の英文、工具・部品・その他船用品の英単語・熟語を学び、実用的な表現力と語彙量の向上を図る。実施にあたっては、重要事項の説明に加え、学習内容に即した英文の輪読、英短文や英単語・熟語の小テストなど演習的な授業形態を中心に行う。

海洋政策科学部における授業概要（典型例 2/3）

専門科目	主専門科目	航海学領域	海洋気象学-2	船舶の安全で効率的な運航において、気象・海象の把握は欠かせない。力学、熱力学、流体力学、気象学、海洋学などの知識を基に、海洋での気象に関わる要素、現象、物理過程について教授する。海洋における気象現象を理論的に理解し、気象情報から気象・海象を読み解く能力、航路選定に活かす能力を身につけることを到達目標とする。また、三級海技士（航海）の必要修得科目であるため、船員の常務と倫理、海技試験を念頭に置く。具体的には、連続開講する同1と共に、気象要素・観測、海象、気象情報、大気循環、気団、高気圧、温帯低気圧と前線、熱帯低気圧、気象航法（演習）、などについて講義する。気象庁港湾気象官などによる特別講義も実施予定である。
専門科目	主専門科目	航海学領域	航海学演習-5	IMOモデルコース1.27に準じてECDISの利用についての理解の定着を目的とする。すなわち、ECDISの法制面及び要求事項、電子海図の主な種類とデータ、関連する各種センサーの果たす航海機能の確認をし、航行監視のための機能の習熟を図る。また、現状に関する情報、各種警報・アラームの意味を理解する。機器およびENCのライセンスおよびENCの更新を実践する。システムとしての完全性を維持する重要性と併せてECDISに対する依存過剰の危険性への理解を深める。操船シミュレータと連携した運用シナリオを繰り返して、BRM (Bridge Resource Management) の一環として機能を完遂できるよう操作を習熟する。
専門科目	主専門科目	航海学領域	運用学演習-2	船舶の運用に関する座学での理解を促進するために、深江キャンパスにある設備等を用いるなどして演習を行う。演習は班別に行う。班は運用学演習-4を受講する上級生と共に構成される。与えられた課題に応じて班で協力して解き、または個人で解いた結果を持ち寄り検討するなどして理解を促進する。課題は運用に関する計算、計画、実演や討議などから成る。運用学演習-2では、船舶の非常時に関する内容を中心に知識と理解を促進する。
専門科目	主専門科目	航海学領域	管理実務-2	船舶の運用学とは、船舶を安全に航行させるために必要な運用方法に関する学問であり、気象海象、船舶構造、操船方法、船上における乗組員の管理、船舶の保守整備、非常事態への対応等大変多岐にわたる学問である。管理実務-2では、運用学のうち、貨物をどのように積むか、また貨物のためにどのような設備があるのかといった海上運送に必要な知識や、非常事態に対してどのように対応しているのか、またどのように非常事態を防ごうとしているのかといった非常事態に関する知識と実務等を学ぶ。

専門科目	主専門科目	機関学領域	機関室資源管理-1	STCW条約に準拠した登録船舶職員養成施設として、三級海技士（機関）養成に求められる「リーダーシップとチームワーク」、「リーダーシップとチームワーク技能の適用」および「乗組員の管理及び訓練に関する知識」について学ぶ。「機関室資源管理-1」では、STCW条約、関係する国内法、登録船舶職員養成施設制度および資質基準システムの基本を学び、機関室資源管理（ERM：Engine-room Resource Management）の位置付け、考え方およびERMを構成する技能および要素（コミュニケーション、リーダーシップ、リソースの配置、明確な意思表示など）の基本、すなわち非技術的スキルに関する基本要件について学び、将来の機関プラント管理における安全向上を目指す。
専門科目	主専門科目	機関学領域	エネルギープラント管理演習-2	船舶だけでなく、海洋構造物など、海洋技術開発に資するマリンエンジニアとして、機関プラントを構成する機器の機能や特性に関する基礎知識、また機器の運転調整に関する基礎技術を発展させた応用技術は必須である。本講義では、エネルギープラント管理演習-1に継続して、実際の船用機関プラントに対し、効率的かつ安全に機器管理する応用技術を学ぶ。学内練習船の機関プラントにおける機関の運転準備、始動、運転、点検調整等の実習を通して、総合的にエネルギープラントに関する知識や技術を習得する。本講義では、機関プラントの構成機器や配管装置について、深江丸実座学で習得した基礎的な知識を用いて、構成や機能などを実務的に理解する。また機器の点検調整や修理方法について、基礎的な知識を発展させて理解する。
専門科目	主専門科目	機関学領域	洋上プラント安全論-2	海洋の有効活用を推進し、海洋の利用と開発を安全に進めるには、船舶や海洋掘削基地など、陸上から孤立したエネルギープラントの特性を理解し、基盤となる知識を応用して理解を深めなければならない。洋上プラント安全論-1に続いて、プラントの通常取り扱いだけではなく、緊急時の対処法や事故防止のための知識について学ぶ。船舶を例にとり、エネルギープラントに対し、安全を確保するための基礎知識や事故防止方法を学ぶ。本講義では、海洋汚染の防止策、関係法律の規定や基礎的な知識を学ぶ。また船体構造や損傷時の制御方法などについても理解する。高電圧設備に関する安全のための取り扱いや注意事項など、最新の船舶設備事情に関する知識も習得する。

海洋政策科学部における授業概要（典型例 3/3）

専門科目	海洋総合科目	海のインターンシップ	<p>海洋分野における産業・行政・研究の機関における就業体験および事前・事後指導を通して、海洋社会の実務実践の一端に触れ、社会人としての基本的なルール、マナーおよび職場の雰囲気を得し、学生自ら将来の職業に対する意識と社会貢献の意欲を形成する。</p> <p>3年次の夏季休業期間中に開講し、1日8時間で概ね1週間を基本とする実習（学外機関における就業体験）および、専任教員（インターンシップ部会）による事前指導（就業規則の遵守、守秘義務および労働安全などの教授）ならびに事後指導（実習日誌を活用した振り返り指導）を行う。</p>
専門科目	海洋総合科目	海のBDL	<p>「海と人の共生」をメインテーマとして掲げ、「海洋基本計画」やIMO docsなどから我が国や世界が直面している海洋政策科学に関する様々な課題の解決へ向けた検討を学生がチームで取り組む。修得した海洋に関する教養知識や海洋基礎科学、海洋応用科学、海洋ガバナンス、航海学、機関学の専門知識を生かし、学生チームが自ら立案した計画に沿って、学内施設の活用やフィールドワークなども交えた調査・検討を進める。異なる専門性の観点から多角的に議論を重ねることで、解決方策をまとめ、発表・討論および報告書の作成を行う。さらに、チーム作業の中で、「思考力・判断力・表現力」および「主体性・多様性・協働性」の重要性を学び、本学部のディプロマ・ポリシーに定められている「学生が身につけるべき能力」を修得する。</p>

専門科目	海洋総合科目	特別研究B	<p>海事政策科学に寄与する各研究領域は多様である。各学生は配属された研究室の学問・研究分野について、確立した学識、議論・検証がおこなわれている仮説等について理解を深める。その修学過程で専攻領域に関連した重要課題・未解決問題を知る。研究室・指導教員の特別・独創的な研究手法についても修学する。その後、研究手段を駆使して結果を得て、考察を行う。この一連の実践によって知見を得る過程（研究活動）を経験する。</p>
専門科目	海洋総合科目	海技士総合ゼミ	<p>航海士・機関士として船舶の運航に携わるにあたっては、座学や実習・演習等で得た知識や経験をその時々の状況に応じて展開することが求められる。そのため、知識や経験の一つ一つを相互に関連させる総合的な理解をしておかなければならない。得た知識と経験の全体を俯瞰しながら自らの理論・理屈を構築する機会として、運航の実際において航海士あるいは機関士に求められることとなる、より実践的な課題に取り組む。これを通じて、海技士として必須な関連知識について理解の体系化を図ることとする。</p>



【 全文 入手可能 】

大学等の設置認可申請書類等の公表ページ

海洋政策科学部海洋政策科学科の設置（令和3年度開設）

http://www.dsecchi.mext.go.jp/2010j/kobe_2008j.html

神大海技士構想

海に関する国際的課題の解決をリードする「海のグローバルリーダー」、持続的な海の開発・利用および探査をリードする「海のエキスパート」、国際物流を支える外航船船長・機関士のみならず海運業界の経営にも携わる「神大海技士」の育成を進めます。

1. 1年生導入科目（動機付け）

- 海のアクティブ・ラーニング
- 海のカバナンス、海のテクノロジー、海のサイエンス
- 海事実務概論
（特に、船員始め海事社会へ誘うもので、各方面からのご協力を頂いている。）

2. リベラルアーツ構想（多方面の知識の修得）

- 主領域（海技ライセンスコース・航海学領域&機関学領域）
- 副領域（ガバナンス系、工学系、理学系）

3. 3年生からの専門科目配置（原則として）

- 工業高専卒業生、一般大学卒業生の編入を受入れ、三級海技士養成科目の履修を実現

4. 学年縦断型の授業配置

- 実験・演習系科目において「縦のつながり」を持たせ、自主性の発揮や責任感の醸成を促す

5. JMETS委託の船舶実習について3年次・4年次の同時乗船

- 実験・演習系科目と同様の教育訓練効果を期待

6. 海技士総合ゼミ

- 二級筆記合格を卒業要件として設定



新造練習船
2022.3
就航予定

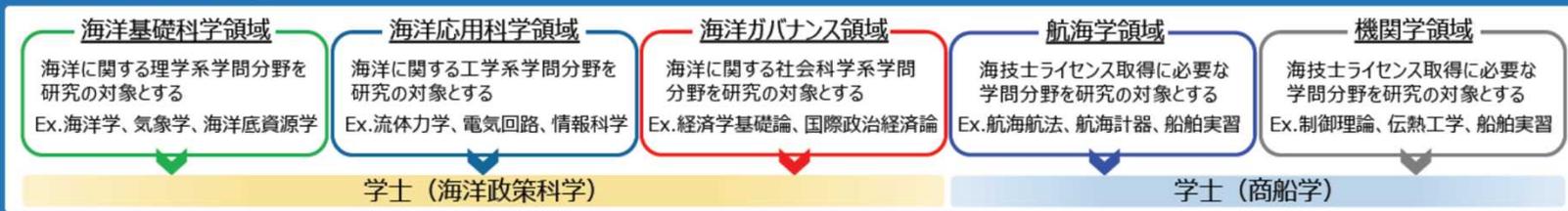


先端研究の臨場感のなかでの専門教育 ～海洋政策科学部～

育成する人物像

人間と海との関わりに関する深い洞察力を有し、海洋の持続可能な開発・利用と海洋環境の保全、海事・海洋産業の発展、海洋の科学的探求、海洋に係る法秩序の安定、国際的協調と総合的管理に貢献し、**将来の海洋立国を牽引する「海のグローバルリーダー」**或いは**「海のエキスパート」**となり得る人材を育成する

学部の構成／取得学位



教育カリキュラム／特色ある取組

海洋に関する知識の広がりや専門性の向上

4年次

海洋総合科目
海のBDLや特別研究を通して、海事・海洋分野の専門的知見を深化するとともに、海事・海洋社会で活躍できる応用力や総合力を身につける

3年次

主専門科目
海洋に関する専門科目について主専門領域を中心に学び、海事・海洋分野に関する専門性を高める。特に海技ライセンスコースの学生は海技免状の取得に必要な専門科目を3～4年次にかけて学ぶ

2年次

海洋専門基礎科目
海洋に関する専門基礎科目について主・副専門領域を中心に学ぶとともに、海事・海洋分野の研究、海事・海洋社会の現状や動向などを理解する

1年次

海洋リテラシー科目
海洋に関する幅広い基礎教養を身につける

神戸スタンダード（基礎教養科目+総合教養科目）
複眼的思考力、協働実践力、多様性と地球的課題の理解力を身につける

神戸スタンダード（高度教養科目）

2 類型入学者選抜

- 一学部のみで文系科目重視型及び理系科目重視型の入試を実施
- 文系的思考の学生と理系的思考の学生がともに学び、交流することにより、海洋問題の解決に不可欠な文理融合の思考力や対応力を育む

海のアクティブ・ラーニング

- 練習船を活用し、限られた船内空間での集団・協働学習体験を通して、陸上と異なる環境での活動を体験
- 海上ルールや実際の機器に触れ、専門分野への学びの意識を培う

海のBDL（Beyond-Disciplinary Learning）

- 海洋に関する教養科目、専門科目の学びを通して修得した多様な知識を基盤として、自ら課題を見出し、広い視野で物事を判断できる能力を養うため、海洋に関わる具体的な課題を専門性の異なる学生がチームを組んで課題解決に向けた提言に取り組む

海洋リテラシー教育

- 海洋に関する専門分野への学際的学びに対する意識の向上を図り、海洋の教養的知識を身につける
- 海洋リテラシー科目を他学部生にも開放することで、海洋教養教育を神戸大学全学へ広げる

主専門・副専門制

- 広範な分野の中にも学生自らの興味に応じた深い学習を促すため、専門科目においては「主に学ぶ領域(主専門)」を選択させるとともに、自領域以外の専門科目(副専門)も選択して効率的に学習できる仕組みを導入

海のインターンシップ

- 海事・海洋産業分野に係るグローバルな企業、国際海事機関(IMO)、国土交通省を含む国内外の行政・研究機関等における研修・実習・就業体験を通して実社会を学び、実践力を涵養する
- 海洋社会や海洋産業への将来の進路の意識付けを促す